

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

熊野牛繁殖雌牛飼養管理マニュアルの確実な実施に向けて

くまのうし

「熊野牛」は和歌山県特産の黒毛和種ブランド牛として、その名が定着してきています。高品質な「熊野牛」を安定供給するため、県では平成 24 年度に母牛用の「熊野牛雌牛飼養管理マニュアル」が作成されました。

紀北家畜保健衛生所では、管内においてこのマニュアルがどの程度実施されているか、各生産者さんにアンケート調査をしました。その結果、①パーネット投与②肝てつ駆虫薬投与③定期的な削蹄 の実施率が非常に悪いことがわかりました。

今回は、これら 3 項目を確実に実施していただくために、その重要性について改めてご説明します。

1. パーネットを飲ませましょう

牛は誤って針金や釘などを食べるのがよくあります。これが胃壁を突き破ると、横隔膜や心臓が傷つけられ、「創傷性心膜炎^{そうしょうせいしんまくえん}」という病気になります。予防策としてパーネットという強力な磁石（写真 1）を投与することは非常に重要です。

初回人工授精時や導入時に一度飲ませるだけで生涯にわたって予防効果が得られます。



写真 1 パーネット（磁石）

2. 肝てつ駆虫薬を飲ませましょう

肝てつとは、牛、豚、山羊・綿羊、人など全ての哺乳類の肝臓（胆管）に寄生する内部寄生虫で、牛では主に稲わらが感染源とされています。近年、粗飼料としての国内産稲わらの利用が減少したこと、さらに駆虫が徹底したことにより発生は減少しました。しかし、シカなどの野生動物が宿主として存在していることもあり、環境中から肝てつが居なくなったわけではありません。

牛が肝てつに感染すると、肝臓が著しく傷害を受けるだけでなく、泌乳、繁殖、増体などが阻害され、経済的損失が大きくなります。

産後 1 か月くらいにイベルメクチン塗布と併せてブロムフェノホス製剤を飲ませ、肝てつ症を予防しましょう。

3. 定期的に削蹄をしましょう

牛の蹄は歩くたびに伸縮を繰り返す、血液循環を保つポンプのように機能します。長く伸びすぎた蹄は、蹄病にかかりやすくなる上、ポンプ作用が働かず牛に悪影響を及ぼし、食餌量・受胎率の低下、病気の原因にもなります。

しっかり稼いでくれる繁殖牛でいてもらうために、必ず削蹄を年 1 回以上行いましょう。



以上3つの項目を忘れずに実施し、母牛の適正管理に努めましょう。詳しくは「熊野牛繁殖雌牛飼養管理マニュアル」を再度ご覧になってください。気になる点や不明な点がありましたら所轄の家畜保健衛生所にご相談ください。